



Yokohama Arts Foundation

記者発表資料

令和4年8月5日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリー

「ことば」と「いろ」をキーワードに、詩人・画家の表現を紹介 新・今日の作家展 2022 世界をとりとめる



「新・今日の作家展」は、横浜市民ギャラリーが開館した1964年から40年にわたり開催した「今日の作家展」を継承し、同時代の作家の作品を紹介することでその表現を考察しています。

今年の副題は「世界をとりとめる」。世界とは、地球上のすべての国家や地域を指すほか、自分が認識している社会や世の中、また自分が自由にできる特定の範囲も意味し、移ろい変化し続けています。本展では、そのような世界のひと時に眼を向け、制作する3名の作家を紹介します。

詩人の大崎清夏は、平易かつ印象的なことばを用い、読み手個々に情景や記憶を喚起させるような作品を発表しています。小林達也は、描く行為の中で生まれる自身の内面の動きを画面に還元した絵画を制作しています。日本画材で制作する古山結は、矩形にとらわれない支持体の制作や描写、時に絵具を削り取る行為等を通じて日々の物事や出来事を整理するように表します。彼らの作品に接し何等かの揺動を得ることが、私たち自身の世界の再認識へと繋がるかもしれません。

展覧会概要

展覧会名：新・今日の作家展 2022 世界をとりとめる

会 期：2022年9月17日(土)～10月10日(月・祝) 会期中無休
10:00～18:00 (入場は17:30まで) 入場無料

会 場：横浜市民ギャラリー 展示室1、B1

出品作家：大崎清夏、小林達也、古山結

主 催：横浜市民ギャラリー (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団/西田装美株式会社 共同事業体)

※ぜひ当事業の取材、情報掲載をお願い申し上げます。
取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。

お問い合わせ先 *本日は17:15まで在席しております。

横浜市民ギャラリー 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】

館長 森井 健太郎 展覧会担当 齋藤 里紗 TEL: 045-315-2828

本展の見どころ

1. 初めてとなる詩人の出品

大崎清夏は50余年にわたる「今日の作家展」、また後継の展覧会シリーズの歴史において、詩人として初めて出品します。展示という形式で発表する詩がどのようなものになるか、ご期待ください。

2. 展示キーワードは世界をとりとめる「ことば」と「いろ」

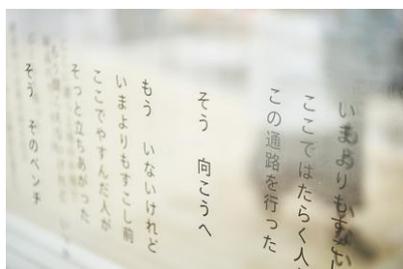
ことばを使って詩を紡ぐ大崎だけではなく、小林達也、古山結の作品タイトルにも印象的なことばが用いられています。小林の鮮やかな色彩があふれるように塗り重ねられた画面、古山のあわい色と形象が溶け込むような、時に矩形をとらない支持体の絵画に添えられたことばは、作品の印象を構築する重要な要素となっています。一方で大崎の詩から感じられる色もあり、展覧会を〈ことばをみる〉、〈いろをよむ〉ように鑑賞することもできるかもしれません。

3. いずれの作家も新作を出品予定

3名の出品作家はいずれも、会場にあわせた新作を発表する予定です。大崎はアーティストの毛利悠子と制作した映像作品《I/0》(2021年)も展示します。総出品点数は約30点となる見込みです。

4. 多彩な関連イベント

古山はニブロールでも活躍するダンサーの小山衣美氏と、会場でドローイングとダンスによるパフォーマンスをおこないます。また、小林は古くから小林の作品を見てきた群馬県立近代美術館学芸員・田中龍也氏と、大崎は気鋭の哲学研究者・永井玲衣氏と対談をおこないます。



1



2



3



4



5



6

1. 大崎清夏《パサーージュ》2021年/アクリル板、カッティングシート、木材/デザイン協力: Cat
2. 《I/0》2021年/インスタレーション: 毛利悠子/詩: 大崎清夏/映像: 玄字民 (c) Yuko Mohri / Photo by Kenshu Shintsubo
3. 小林達也《星がある》2021年/パネルに寒冷紗、建材パテ、カゼインテンペラ、アクリル、クレヨン、色鉛筆/272.0×362.0 cm
4. 小林達也《大きな線 もしくは星》2021年/パネルに寒冷紗、建材パテ、カゼインテンペラ、アクリル、鉛筆、色鉛筆、マジック、クレヨン/272.0×240.0 cm
5. 古山結《探さないでください》2022年/木製パネル、下地材、岩絵具、水干絵具、膠/23.7×23.7 cm
6. 古山結《唄い群れ》2022年/木製パネル、和紙、岩絵具、水干絵具、膠/130.3×130.3 cm

出品作家



撮影：黒川ひろみ

大崎清夏 OSAKI Sayaka

1982年神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。2011年、ユリイカの新人としてデビューし、第1詩集『地面』を刊行。第2詩集『指差すことができない』（青土社）で第19回中原中也賞受賞。動物に近い視線や、平易な言葉によって織りなされる寓話的な詩世界で注目される。第4詩集『踊る自由』（左右社）で第29回萩原朔太郎賞最終候補。その他の著作に絵本『うみの いいもの たからもの』（山口マオ・絵/福音館書店）他。

小林達也 KOBAYASHI Tatsuya

1973年神奈川県生まれ。1998年筑波大学大学院芸術研究科美術専攻修了。寒冷紗を貼ったパネルや紙に、主にミルクを原料としたタンパク質を用いるカゼインテンペラを軸に、アクリル絵具や色鉛筆、クレヨン等多彩な画材を用いて制作をおこなう。主な個展に「大きな線 もしくは星」（2021年、GALERIE PARIS/神奈川）、「立って歩く」（2009年、トーキョーワンダーサイト本郷/東京）、グループ展に「桐生のアーティスト2020」（大川美術館/群馬）、「VOCA展2007」（上野の森美術館/東京）他多数。



古山結 FURUYAMA Yui

1991年愛知県出身。2021年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻日本画領域修了、博士号取得。自身で制作する矩形に囚われない支持体に、日本画材を用いて制作する。主な個展に「端境に立つ」（2022年、ts4312/東京）、「近接遠眺」（2022年、CLEAR GALLERY TOKYO）、グループ展に「シェル美術賞2020」。2018年、東京藝術大学大学院修士課程修了制作作品大学美術館買上げ。シェル美術賞2020入選。

関連イベント

※いずれも参加無料、申込不要

・仕草のドローイング「動きのなかにあることば」

古山結×小山衣美（ダンサー）

日時：9月19日（月・祝）14:00-14:30

会場：展示室1

・対談「私たちは、星だろう」

小林達也×田中龍也（群馬県立近代美術館学芸員）

日時：9月24日（土）14:00-15:30

会場：4階アトリエ

定員：先着30名

・対談「生き延びるための遊び」

大崎清夏×永井玲衣（哲学研究者）

日時：9月25日（日）14:00-15:30

会場：4階アトリエ

定員：先着30名

・学芸員によるギャラリートーク

日時：10月2日（日）14:00-14:30

会場：展示室1、B1

※新型コロナウイルス感染拡大状況、その他諸般の事情により、展覧会および関連イベントの内容が変更となる場合があります。

※開催情報と参加方法の詳細は当館ホームページでご確認ください。